広報市民リポーターだより 第8回

「ハチ公」を核に地域興し

今、大館には、このまちを良くしようと考えている人たちがたくさんいます。そんな人たちの中に、忠犬「ハチ公」を核として地域興しをしようとしているグループ「ホワイトガーデン協会」があります。同協会の設立と活動などについて会長の石川成さんに伺いました。

市民の手でまちづくり

私の所属している青年会議所では、大館独自のもの、大館らしさをわかってもらえるもの、住民の生活が良くなるもの、そんなまちづくりについていろいろ話し合っていました。その中で、大館に生まれ、渋谷で育ち、全国に知られている忠犬「ハチ公」を生かすことにしました。初めは、ハチ公の墓を中心としたペット霊園はどうかということになったのですが、それをまちづくりに結び付ける良いアイデアが浮かんでこなったんです。

そんな折、〝渋谷ハチ公慰霊祭(二年四月)〟の時に、交流していた渋谷区青年会議所の人の紹介で、まちづくりのプランナー諸橋氏と知り合いました。諸橋氏からアドバイスをいただき、ハチ公の墓を中心とする「ペット霊園」と、秋田犬をはじめいろいろな犬の資料等を展示する「犬の資料館」、市民や訪れた人たちがいつでも自由に散策できる「西洋風庭園」の三つを柱とした「ホワイトガーデン(ハチ公のねむる庭)」できあがりました。

ホワイトは、雪国大館に降り積もるバージンスノー、澄んだ水と空気から汚れのない〝白〟を。ガーデンは、にぎわいのあるまちの中で〝人々が憩う場〟をイメージしています。

ホワイトガーデンを、大館を愛する多くの人たち自らの手で造りあげていくことが地域興しにつながります。そのため、市民に参加、協力を呼び掛けて平成二年九月「ホワイトガーデン協会」ができました。発足時の会員数は三十人、現在は六十八人です。会員の中には、渋谷区の人も数人います。

大館が好きで誇れるように

協会では、まず計画の中のできることから実行することにし、大館駅前にあるハチ公像の清掃、ハチ公慰霊祭、ハチ公生誕祭、ハチ公ふれあいコンサートなどを実現させました。

ハチ公慰霊祭は、渋谷では五十年以上も続けられていますので、大館でも長く続けていきたいと思います。また、ハチ公ふれあいコンサートは、市制四十周年を記念して昨年の秋に開催しました。その時、大館出身のシンガーソングライター因幡晃さん作詩、作曲による「君のホームタウン」を、市のイメージソングとして発表しました。一つのまちづくり運動から市のイメージソングができたのです。とても素晴らしいことだと思います。

これからも、私たちはできることから一つずつ実現していき、いずれはペット霊園、犬の資料館、西洋風庭園の建設にたどりつきたいと思っています。ホワイトガーデンを通して動物を愛する心、自然を愛する心を市のイメージとしてアピールしながら、地域興しにつなげていきたいと考えています。具体的には、いろいろな地場産品に付加価値を加え、大館の特産としてホワイトガーデンというブランド名で販売、PRできないか検討しています。それから、ハチ公が縁の渋谷区との交流を更に発展させることで、大館の個性を東京、全国へと伝えていきたいと考えています。

ホワイトガーデンの主役は市民でなければなりません。より多くの皆さんがこの計画を理解し、参加、協力してくださることを望んでいます。市民の熱意が下地となり、更に行政のバックアップがあれば、ホワイトガーデンの実現が早まります。

いろいろな考え方や意見があると思いますが、大館は、住んでいる人に心から好かれるような、だれにでも誇れるようなまちになることが大切だと思います。そんなまちづくりを私たちは目指しています。

一人ひとりの力は小さいけれど、たくさんの人の力が集まればとても大きなことができると考えさせられました。私は、大館に住む一人として、小さな力の一つになりたいと思います。

広報市民リポーター

加藤紀彦(大町)

石川会長から取材する加藤リポーター(左)

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。